

<寿都町 教育サポート報告>

佐藤芳伸、福島香菜子、多々見文恵、藤村摩美、草嶋乃美

【教育の現場】

主催者：寿都町教育委員会

行事名：自然体験サバイバルキャンプ

日 時：平成 17 年 8 月 5 日（金）13:00 集合

平成 17 年 8 月 6 日（土）12:00 解散

場 所：旧湯別小学校および、浜中海岸

参加者：小学 4～6 年生（9 名）、中学 1～3 年生（10 名）、計 19 名

講 師：対馬一男、五十嵐敏彦、佐藤芳伸、大谷高志、

福島香菜子、多々見文恵、藤村摩美（自然科学教育分科会）

草嶋乃美、山田梢恵（北海道教育大学札幌校）

【授業のねらい】

寿都町の豊かな自然を身体で感じながら、歴史や特徴について学習し、郷土への興味や関心を育む。

【授業の内容】

8 月 5 日（金）13:30～19:00

体験Ⅰ・・・海遊び（教育委員会）

体験Ⅱ・・・①真水と海水の違いを調べてみよう!!(多々見・藤村)

②ケーキの材料で焦げを落としちゃおう♪(福島・草嶋・山田)

③カルメ焼き(福島・草嶋・山田)

④寿塩作り(大谷・五十嵐)

*地盤液状化実験ボトル「エッキー」(対馬)

体験Ⅲ・・・⑤空中散歩ー空から見た寿都町ー(佐藤)

8 月 7 日（土）6:00～12:00

ラジオ体操

後片付け

ふりかえり（教育委員会）

【感想】

今年はサバイバルキャンプに2日目からの教育サポートとして参加しました。昨年に続き『真水と海水の違いを調べてみよう!!』では、去年の真水と海水の色水遊びに加えて、木のキューブを浮かべ、木の種類によって重さが違うこと、水と海水と死海の水では、浮き沈みに差が出ることなどを、知ってもらえたらと思っていたのですが、予想を超えて、「ペットボトルに真水と海水と同じように死海の水を入れたらどうなるの?」「真水と海水にさらに真水を入れるとどうなるの?」など、好奇心旺盛な子供たちに圧倒されるばかりでした。キューブの方では、どの班も四苦八苦しながらも1セットの実験道具を囲み、皆でアイデアを出し合い協力してヒントを出さなくても重たい順番に並べることができました。

“重曹”というおやつ材料を用いた『ケーキの材料で焦げを落としちゃおう♪』は、目に見える焦げ落ちが披露できず、反応が薄くて残念でした。『カルメ焼き』はよくふくらみ、ちょっとしたおやつができました。会って間もないため照れているのか、自信がないためか、声をかけても実験に消極的な子もいて、そういう子をもっとサポートしてあげればよかったと反省しています。

『寿塩作り』では、教育委員会でゆで卵を用意して頂いていたので、自分たちでつくった塩は、見栄えは悪かったものの美味しかった(?)です。海で泳いだ後で、ちょっとしたブレイクタイムでした。

『空中散歩』では、子供達は立体鏡を覗き込み、市街地の建物や、地形地物が浮き上がって見えることに大変よろこんでいました。最初は目が慣れずに尻込みする子供もいましたが立体視になれるにしたがって、学校や自分の家を探したり58年前の港と今の港が大きく違っていることに、58年間の歴史を感じ取っていた様です。肉眼立体視の練習は、かけた時間が10分位であり、この練習は大人でも慣れるのに10分~15分位かかるので、子供達には取り組みづらいメニューであったのかもしれませんが、この点は、私の想いが子供達に伝えきれず終わってしまいました。

昨年より1日短いサポートでしたが実験や食事作り、花火を一緒に行い、実験を教えに来てくれたオジサン、お姉さん達ではなく、一緒にキャンプしたオジサン、お姉さん達になれたのが気になりますが、普段の生活に何気なくあるものでも、サイエンスの視点から見ると面白いというカケラに気づいて貰えたのかと思います。だからこそ、子供たちの真剣な顔やとびっきりの笑顔を見ることができました。



寿



死海



カルメ



実食



浜中縁日



マジシャン



毒味



立体写真館館長



生徒じゃありません！



飛び出し！



お土産



名人芸
